

檜尾川砂防ダム予定地の下流域山手町に住んでおります。

前回、檜尾川砂防ダムについて、私たち府民にいかにか正確な情報公開がなされてこなかったかについて陳述いたしました。一つは、この再評価委員会に意見を応募するに当たって、高槻市や大阪府に説明を求めたときのこと、さらには情報公開請求をした際のことでした。いずれも私たちに十分な、あるいは適切な説明や情報公開がなかったことです。

いま一つは、流域に配付された2枚のチラシがいかにか不適切なものであるか、正確な情報を伝えていないかについて陳述いたしました。

私の陳述に対して、先ほど府の方から反論がありました。別途再反論したいと思いません。

今、こうして再評価委員会の場で府の方とやりとりをする機会を得ていますが、意見の公募や意見陳述の機会があると知った者は少数でしかありません。また、地元からの要望書が出ていると言いますが、それら団体の構成員はいまだそのような要望を出されたことすらご存じありません。流域住民ですら砂防ダムの計画を知らない方もまだまだたくさんいます。先ほどの説明では、山手町自治会からも出ているとのことですが、自治会の会員である私も全然その要望書については知りません。このような状況をもって府民意見を聴いたというには余りにも横暴であるということをもっと最初に指摘しておきたいと思えます。

さて、大阪府は、檜尾川は土砂流出の著しい河川であるので、砂防ダムを設置する必要があると言います。

（図1）

これは旧の西国街道に架かる檜尾川橋から山手町の檜尾川を撮った写真です。この向こうに見えますのが山手橋です。これは檜尾川橋から上流を見た写真です。下は橋の手前の方です。これを見ていただきましたらわかるように、ここにコンクリートの底が見えています。内側のカーブのところに若干土砂が堆積しています。そういったことが確認されるわけです。

（図2）

これは檜尾川橋から下流方面を撮った写真です。これがJRの鉄橋です。これはやはり橋の手前の方です。おわかりになるように、川底に堆積土砂はございません。この少し先の方に少し土砂が確認できます。上流方面、下流方面、両方を見ていただきましたように、河床に土砂はほとんど堆積しておりません。

次に、「檜尾川の浚渫及び改修について」という資料をご覧いただきたいと思えます。

（図3）

これは、大阪府茨木土木事務所の職員の方が役所に残っている記録をもとに作成してくださった一覧表です。この表によりますと、山手町の浚渫は85年度（昭和60年度）に行われたきりです。また、山手町の河川改修は89年度から行われています。この表では、個別の箇所はわかりませんが、先ほどの写真の箇所もこのころから工事が行われていたかと思えます。

檜尾川橋の竣工が95年4月で、私の記憶では、檜尾川橋の付け替えが終わって後、檜尾川の工事はなかったと思えます。

また、この表によりますと、改修が終わった箇所については、その後一度も浚渫が行われていないことがわかります。

87年度（昭和62年度）以降、浚渫工事が実施されている地区は、いずれも未改修の地区です。河川改修のあり方については議論のあるところですが、とりあえず河口から名神自動車道路あたりまでは河川改修も終了し、おおむね川は良好な状態であると言ってもいいのではないのでしょうか。河床に堆積する土砂が問題であるというのなら、改修部分についても定期的に浚渫工事を実施すればいいのです。

先日、砂防ダム予定地より上へ川の中を歩きながら登ってみました。確かに設置された治山ダムは満砂状態でした。なるほど、ダムをつくれれば土砂はたまるということはわかりました。しかし、これらのダムがなければ不都合だったかどうかは疑問があります。

同日、偶然ですが、檜尾川の支流をも歩くことになり、奇しくも治山ダムが設置された檜尾川本川の渓流とダムが設置されていない渓流を視察する機会に恵まれました。ダムが設置されていない渓流ではどうかといいますと、地形により土砂が堆積されているところ、あるいは倒木や大きな石により土砂が堆積しているところ、石がごろごろしているところなど様々な箇所がありましたが、何も不都合は見受けられませんでした。

ダムがないところでは、少しずつ下流に土砂が流されているのです。当然、この檜尾川支流の土砂は下流の山手町にも流れてきて、一部とどまるもの、さらに下流に流されるものがあるかと思いますが、流され、堆積した土砂が災害を引き起こす原因になるというのであれば、定期的に浚渫すれば事足りるのです。

さらに言えば、斜面の崩壊や土砂流出を最小限にとどめられるよう山の整備をしっかりと行うことが必要です。要するに山や川の管理をしっかりと行えばいいのです。

檜尾川上流は土石流危険渓流ではないのですから、それで十分ではないでしょうか。いみじくもこの2つの渓流が物語っています。2つの渓流では若干条件が異なっているかもしれませんが、単純比較はできないまでも、道理は同じことです。

私たち下流域の住民にとって、上流の森林や田畑が良好に保全され、川がしっかり維持管理されてこそ、安心して暮らしを営むことができるというものです。大阪府も森林を保全することは防災上重要なことであると言います。そして、開発などによる森林伐採については、土砂流出などの影響が出ないように、各種法令に基づき指導を行っているとしていますが、流域の田んぼに水がないという農家の方の切実な悩みは自然環境が変わってしまったことによるものです。また、先日の住宅地での出水騒ぎも、法令に基づいてやっていると言っても、様々に不都合が起きていることを証明しています。

私たちは土砂による災害だけを恐れているわけではありません。自然に人の手が加わることにより、思わぬところに災害が発生するケースは、地元流域ばかりでなく、全国各地で枚挙にいとまがありません。

この上は、一本の木も切らずに、森林や田畑がもつ自然のダム効果を最大限に生かし、自然の地形を生かしながら、川とのつき合い方を先人の知恵に学び、世界の流れに逆行することなく、賢明な選択をしたいと思うのです。

過去の公共事業のあり方が様々な観点から厳しく問われたからこそ、この建設事業再評価委員会なるものが設置されたという原点を忘れることなく、委員の皆様方には公正で適切な判断をお願いして、陳述を終わります。

（追加意見）

申し上げたいことが本当にたくさんあるんですけども、時間の制約がありますので、二つ申し上げたいと思います。

一つは、前回私が陳述したことともかかわるんですけども、とにかく私たち住民に計画が知

らされていないんです。府の方は、例えば新聞で意見を募集したとか、そういうこともおっしゃいますし、この間のチラシについては、チラシも配付しましたとおっしゃるんですが、新聞でご覧になった方も数少ないですし、またチラシを配付されても、ご覧になっている方が非常に少ない。私自身もこの砂防ダムの計画については大変関心を持っていましたけれども、チラシに気がつかなかったんです。新聞の折り込みチラシと一緒に入ってくるものですから、ふだん折り込みチラシを見る習慣がない者にとっては、そのままばささと廃品回収行きというふうになります。チラシそのものをご覧になっている方が非常に少ないということなんです。

それは、この件に限ったことではなくて、高槻市でいろいろなときにチラシに折り込むということもあったわけですが、やはり同じように見てないんです。ですから、この計画自身がまだまだ住民に知られていないということと、それから前回私が申しましたように、この計画について府の方がきっちり情報公開をしない。それは一つは、例えば今回のこういう議論に関しましても、私たちが陳述した内容をなぜか真っ直ぐに受け取っていないという印象を非常に持ったわけです。府民の意見があって、府の見解があって、両方書いてあるわけですが、私たちの意見が、真意がきっちり書かれていない。そういったことも含めまして、やはりフェアに議論するという、そういう前提自身が非常に希薄なように思うんです。

ですから、この問題について、情報をきっちり正確に公開していただいて、また一般の住民に対してもきっちり計画を知らせていただいて、そしてフェアな議論のもとに判断をしていただきたいと思います。

先ほど来、いろいろ出ていますけれども、今まさにこれまでやられてきたような砂防事業のあり方ですね、要するに谷底から山の頂上まで砂防ダムをつくり続けているというふうな谷がいっぱいあるんですね、全国に、そういうことに対する疑問が一方であるわけです。

私たちはそういうものに対して、ほかに代替案がないのだろうかということは今考え始めたわけです。ですから、そういったことに対してしっかり考える時間を頂きたいなというのがまず1点です。

それともう一つは、先ほどの私の陳述に対して、府の方の反論といいますか、説明がありましたので、もう一度少し説明したいと思います。

(図1)

これは先ほどの写真なんですけど、この計画を説明されたときに、要するに天井川対策でもあるというふうな説明だったと思うんです。まさにこの山手町というのが天井川なんです。この川のこちら側が山手町1丁目で、川床よりも低い住宅地になっています。こちら側は高いんですが、そういうまさに天井川である山手町の一つの流域の写真を参考までに私が持ってきたわけです。要するに、こういう天井川で、土砂が堆積して、危険であるから、上流に砂防ダムをつくるのだと、そういう説明が一つあったわけです。確かにここは改修されて、まだ何十年もたっているというわけではなくて、ここ数年です。数年だとしても、現在こうして堆積土砂はわずかしかなりません。このところはほとんどコンクリートそのままです。ですから、こういう状況がいわゆる天井川だと言われる檜尾川の一つの状態ですということをお示ししたわけです。

以上です。